

No.28  
April  
2005

NSnet

# NSnet News

第68～72回安全キャラバンの実施

第43回～44回相互評価の実施

第10回評議員会を開催

# 第68~72回安全キャラバンの実施

今回は、第68~72回の安全キャラバンの中から安全講演会について紹介します。

安全キャラバンの詳しい内容はNSネットのホームページ (<http://www.nsnet.gr.jp/>) をご覧下さい。

回	実施時期	会員名・事業所名	安全講演会講師	講演テーマ
68	H16.12.15	(財)電力中央研究所 我孫子運営センター	北陸電力株式会社 原子力技術研修センター 所長 嶋田 篤 氏	安全確保の取り組みー志賀原子力発電所ー
69	H17.1.21	日揮(株) 横浜本社	中部電力株式会社浜岡原子力発電所原子力研修センター 所長 平川 一郎 氏	安全を守るためにー浜岡原子力発電所の取組みー
70	H17.1.31	東京電力(株) 福島第二原子力発電所	熊本大学 教育学部附属教育実践総合センター 教授 吉田 道雄 氏	組織の安全管理と人間理解ーヒューマン・エラーのグループ・ダイナミックスー
71	H17.2.16	(株)ジー・シー・オー 東海事業所	関西電力株式会社 原子力事業本部 チーフマネジャー 山手 浩一 氏	美浜発電所3号機2次系配管破損事故を踏まえた今後の課題と取り組み状況について
72	H17.2.28	北陸電力(株) 志賀原子力発電所	熊本大学 教育学部附属教育実践総合センター 教授 吉田 道雄 氏	組織の安全管理と人間理解ーヒューマン・エラーのグループ・ダイナミックスー

## ● 財団法人電力中央研究所 我孫子運営センター 安全キャラバン<安全講演会>

- 定検時では、単純ミス撲滅運動を展開し、トラブルで大きな割合を占める「水漏れ」に特化したKY活動(危険予知活動)を実施している。また、ヒューマンファクター向上活動としてSTAR(Stop, Think, Act, Review)活動、ヒヤリハット・気がかり事例、情報収集及びDB化を行なっている。更に職場活動の活性化方策として日本プラントメンテナンス協会のTPM手法を使ってマイプラント意識、自主保安活動の向上に取り組んでいる。
- 2号機建設工事では、労働災害が課題である。今迄に延べ153人が工事に携わっており、休業1日以上の災害が11件発生している。災害要因の分析を行い、災害事故の撲滅を目指して資格の取得、勉強会、安全事前審査会の実施等、アグレッシブな安全管理活動、職長との対話、一声運動等、風通しの良い職場環境作り、墜落落下・吊搬災害の防止等に取り組んでいる。



▲ 嶋田 篤 氏

## ● 日揮株式会社 横浜本社 安全キャラバン<安全講演会>



▲ 平川 一郎 氏

- 技術力の維持・向上のため、浜岡サイト内の研修センターに「失敗に学ぶ回廊」と名付けられた「技術伝承室」を設置している。これは過去に発生したトラブル事例に関する経験(失敗の経験)を確実に伝承することを目的としてトラブル事例品、事例パネル、状況写真、新聞記事のほか、経験者の経験談も展示している。このほかCAI(Computer Aided Instruction)を作成し、トラブル等の技術伝承に活用している。
- 不適合情報の共有化については、不適合情報を共有化するため「保全情報等確認会合(CAP会合)」を毎朝開催している。この会合では発電所長をはじめ、社長の直属組織である経営考査室の浜岡駐在部長も出席し、トラブルになる前の兆候段階での不適合情報を共有化する他、必要に応じて処置方針や対応状況の確認を行っている。

### ● 東京電力株式会社 福島第二原子力発電所 安全キャラバン<安全講演会>

- 個人の平和、幸せ、健康、安全(PHS)が確保できてこそ組織の PHS が実現できる。
- モラルの崩壊の前にモラール(士気)の低下が現れる。職場の対人関係やリーダーシップがモラールに大きく影響を与えている。モラールアップでモラル崩壊を防ぐ。
- 間違つたら謝ることに快感を覚えるような組織・環境が協力会社も含めて大事だ。こうした職場風土がなければ、ミスや事故につながるヒヤリハット体験など表に出てこない。
- 機器や設備の設計と運転は、Fail-safe で、それを運用する人間は Feel-unsafe でいいたい。「何かおかしい」と感じたら、それは「危険ではないか」と考える感受性が求められている。自分の思い過ごしや間違いなどといった判断はしない方がいい。
- 安全に関する「知識」がなければ、安全を確保しようがない。しかし、「知識」があっても事故は起こる。そこに、「知識」を生かす「意識」が必要であり、さらに「意識」が「行動」になってはじめて安全が実現する。
- 「我々はこんな大切な仕事をしているんだ」という誇りを自分たちがもつことが大事だ。自分の仕事の意義を考えて自ら生き甲斐や誇りと責任を見つける。そのことによって安全に対する意識が現実のものとして実現する。
- 組織を脅かす悪魔の法則が5つある。(①慣れ→マンネリ、形骸化、②経験の誤った一般化→これまで事故なし、これからも・・・、③記憶の加工・物語づくりと忘却、④マニュアルは違反しても事故らない、⑤マニュアルを守っても事故る→マニュアルを守る愚直な頑固さ、マニュアルを機敏に変える柔軟さの両立が必要)



▲ 吉田 道雄 氏

### ● 株式会社ジー・シー・オー 東海事業所 安全キャラバン<安全講演会>



▲ 山手 浩一 氏

- この事故は、減肉管理指針に基づいて図面から測定箇所を抽出する際に当該箇所がリストアップされず、その結果28年間リストから漏れたまま点検されず発生した。
- 他電力の発電所での同種のリスト漏れがあったが水平展開されなかったこと、配管管理を受注していた日本アームは約15ヶ月前にリスト漏れに気づいたが、漏れている箇所はリストアップして次回測ればよいと考え、閲電の担当者にもリスト漏れの報告しなかった。2次系の配管で一気に破断するということを誰も意識できていなかつたのではないか。
- 減肉管理の測定結果の判定基準、考え方をきちんと適用していないところがあった。
- 今後の課題としては、品質保証システムの再構築、労働災害の防止、プラントの高経年化への対応、地元との信頼関係の修復をこれからやっていかなければいけない。  
(注：ご講演は、2月16日時点での状況をご説明いただいておりますので取組み状況の対策等は検討中の段階のものとなっています。)

### ● 北陸株式会社 志賀原子力発電所 安全キャラバン<安全講演会>（速報）

講演テーマ：「組織の安全管理と人間理解 一ヒューマン・エラーのグループ・ダイナミクスー」

安全講演会は、東京電力(株)福島第二原子力発電所に引き続き、熊本大学の吉田先生に同じテーマでご講演いただきました。



▲ 講演会の様子

# 第43回相互評価の実施

ピアレビューの概要及び報告書の全文はNSネットのホームページ (<http://www.nsnet.gr.jp/>) に掲載していますのでご覧下さい。

回	実施時期	会員名・事業所名	所在地	施設分類
43	H17.1.12～1.14	三菱原子燃料(株)	茨城県 東海村	燃料加工施設

## ● 第43回ピアレビューの主な結論

- 今回のレビュー結果を総括すると、原子力安全の面で直ちに改善措置を施さなければ、重大な事故の発生に繋がるような項目は見出されなかった。
- 会社の方針等に原子力安全を最優先することを掲げており、これらに基づき幅広い安全活動に取り組んでいる。また、関係会社と一体となって安全確保を図る職場風土が醸成されている。さらに、コンプライアンス相談窓口の設置や定期保安教育に合わせたコンプライアンス教育の実施等により、コンプライアンスの徹底に取り組んでいる。
- 今後も現状に満足することなく、なお一層の安全文化の向上を目指して更なる自主努力を継続していくことが望まれる。



▲ 三菱原子燃料(株)



▲ レビュー状況

## 〈 良好事例 〉

- 定期保安教育、モラル教育、改善提案等を関係会社社員と合同実施することによる一体感の醸成
- 継続的な教育・訓練課題の改善活動
- 不適合実事例等の整理・活用による多角的かつ効果的なヒューマンエラー防止活動の実施

## 〈 改善提案 〉

- モラル教育方法の更なる充実
- 「倫理・コンプライアンス」教育の教育体系への確実な取り込み
- 「Know Why 活動」にて整理された技術知見の将来への伝承方法の改善

# 第44回相互評価の実施

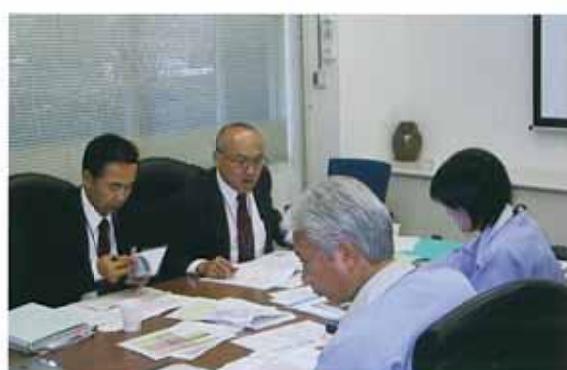
回	実施時期	会員名・事業所名	所在地	施設分類
44	H17.1.26~1.28	(株) グローバル・ニュークリア・フェュエル・ジャパン	神奈川県 横須賀市	燃料加工施設

## ● 第44回ピアレビューの主な結論

- 今回のレビュー結果を総括すると、原子力安全の面で直ちに改善措置を施さなければ重大な事故の発生に繋がるような項目は見出されなかった。
- 同社では、ISQO (Integrity-Safety-Quality-Output) の理念に基づく「保安品質方針」が定められ、この方針及び方針を受けた行動基準に基づく諸活動を展開し、社長をはじめ全社員が安全確保に取り組んでいる。また、コンプライアンスに関しては、オンブズパーソン制度の積極的活用、定期的な「インテグリティ教育」などにより取り組んでいる。さらに、環境・安全・衛生の活動手引きとして「EHSハンドブック」を全従業員に配布し活用するなどして安全意識の徹底に繋げている。
- 今後も現状に満足することなく、なお一層の安全文化の向上を目指してさらなる自主保安努力を継続していくことが望まれる。



▲ (株)グローバル・ニュークリア・フェュエル・ジャパン



▲ レビュー状況

## 〈 良好事例 〉

- 環境・安全衛生・原子力安全に関する情報を集約した小冊子「EHSハンドブック」の作成及び活用
- オンラインによる改善報告システムの運用
- 安全衛生活動推進のためのポイントカードの導入
- 「e-ラーニング」方式による現業部門以外の従事者への自習教育
- 作業経験からの知見等の教育訓練プログラムへの活用
- 「インテグリティ教育」による意識の浸透、定着
- 作業安全分析 (JSA) による危険要因・リスクの抽出及び対策の実施

## 〈 改善提案 〉

- ホームページを活用した情報発信の充実
- 教育終了後のフォローと結果の次回教育への確実な反映
- 設備改造時における設計要求事項の反映審査の具体化
- 設備改造後の文書類の見直し方法

# 第10回評議員会を開催

平成17年3月10日東京都千代田区の経団連会館において、第10回評議員会を開催しました。

本評議員会では、平成16年度の活動実績、平成17年度の事業計画と今後の方向性を中心に各評議員からご意見をいただきました。NSネットではこれらを取りまとめ、ホームページに掲載する予定です。



▲評議員会の様子

## 《評議員会での主なご意見》

- 原子力村の中だけで自己満足的に活動するのではなく、外から見た(活動の)評価に基づいて、活動の展開が必要である。
- 組織全体の自己評価の仕組みが甘かったのではないか。
- ピアレビューでも一般社員が意見交換をして勉強する機会と位置づけ、そのための方法を考えた方がよい。
- 組織は時とともに惰性に陥るものであり、そこにどのようにして刺激を与えるかが大切だと思う。事業所を訪問したら、地域との交流を持つことも緊張感を持つ意味ではよい。
- 些細な問題が起きたときにそれを跳ね返すには、現場が地域の住民とどれだけ信頼関係を持って密着しているかが重要ではないか。その意味でも、村の中だけで議論するのではなくて、外からの刺激や海外からの刺激が必要である。
- 米国のビジネススクールなどでは、豊富な事例を研究・分析しており、教訓も生かしている。日本の企業文化では、教訓から学ぶための情報を部外に出さないために、過去から教訓を学ぶことができない。



▲白土理事長代行



▲石井座長



▲大平評議員



▲岩井評議員



▲田中評議員



▲東嶋評議員



**お知らせ** NSネットは、本年4月13日をもって日本原子力技術協会へ事業を引き継ぎ、NSネット事業部となって下記のビルへ移転する予定です。  
今後とも引き続き、ご支援・ご協力のほど宜しくお願ひいたします。  
移転先：東京都港区芝四丁目2番3号 いすゞ芝ビル 7階



docomo/au



Vodafone

こちらのバーコードからNSネット携帯サイトへアクセスできます。

(表紙写真 / 大阪府泉南郡熊取町

NSnet News No.28 2005年4月発行

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル 437号室

TEL:03-5220-2666 FAX:03-5220-2655

インターネットでNSネットの詳しい活動内容をご紹介しています。

<http://www.nsnet.gr.jp>



ソメイヨシノ (NSネット事務局員撮影)